公同礼拝

２０２３年5月７日(日) 午前１０時３０分

午後３時

司式　牧師　姜 徑米

前　　奏

招　　詞　ヨハネによる福音書４章２３節

讃　　詠　　５４６

主の祈り

聖　　書

詩　　編　２７編７～１０節　　(旧 858)

マタイによる福音書　１３章５３～５８節

(新 27)

祈　　祷

使徒信条

讃 美 歌　　１０（１，２）

説　　教　「知識の改革」 牧師 高橋和人

祈　　祷

讃 美 歌　　２８８（１，２）

聖 餐 式

献　　金

頌　　栄　　５４４

祝　　祷

後　　奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

５月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の導きにより、困難な中にも信仰が力づけられ、慰めが与えられ、終わりの時の希望を持つ教会としての歩みを果たすことができるように。

戦火のもと、苦しみと不安の中にある人々に主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。

犠牲者が減らされ、平和がもたらされるように。

教会学校、幼稚園の子どもたちが守られるように。

東京教区の諸教会を覚えて。

今日の祈り

聖霊に導かれて礼拝が力づけられ、主の栄光が現わされるように。

罪赦されて、救われた恵みを覚え、信仰によってもたらされた平安に歩むことができるように。

御言葉によって、主に立ち帰り、主に委ね、主に従うことを覚えて歩むことができるように。

「知識の改革」　高橋和人

マタイによる福音書　13:53～58

主イエスはたとえで話された。それに続いて主イエスの行動とそれに対する人々の反応が記される。

主イエスは故郷にお帰りになった。ナザレであろう。当時は小さな村であった。主イエスは、会堂でお語りになった。

会堂はその町の中心であり、生活の中心であった。そこは、主イエスを良く知り親しいものも多かった。それは礼拝の日であった。主イエスの教えは大変な驚きを与えた。子供の頃から主イエスを知っているものたちの思いを超えるものであった。

その知恵と奇跡の力の出所に思い当たることはなかった。イエスは特別な存在ではなかった。またそこには知恵や力を身に付けることのできる特別なものはなかった。

彼らが知っているのは主イエスが大工の子であり、その父も母も弟や妹も名前さえ知っている。そればかりでなく、生活も一緒だ、家族は同じ住民だということであった。

特別な存在ではなく、同郷の普通の人としか見ることができなかった。そこでは神の子を見出すことができなかった。福音が伝わらなかった。

知っているつもりになればなるほど、主イエスの真の姿が遠ざかる。そればかりか躓く。理解しないどころか強い反感を持つ。心を狭めたのだ。

自分の知っているイエス、自分の理解している範囲からそれると反発さえ感じ始める。一番主イエスを理解してよいはずの故郷なのに。

主イエスの存在は人々の無理解を引き出した。主イエスはわたしたちの罪を明らかする。知っているからこそ認められないのは、嫉妬であったという者がいる。同等のものなのにという思い。傲慢であったり、愛がなかったり、問われることを嫌う。上に立たれたくないのだ。

主イエスを信じられないのは、同じ人間が神に子であり神の福音を語ることが受け入れられないからだ。福音を受けいれるには自分の小ささを知らねばならない。

主は「心を入れ替えて子どものようにならなければ…。自分を低くして…」18:3,4 と言われた。自分の小ささが分かれば慈しみを知ることができる。